

関東学生選手権団体戦、矢板 IC チーム優勝

インカレ団体戦の行方を占うとして毎年注目される関東学生オリエンテリング選手権団体戦が日光所野で2月10日(日)開催され、筑波大学が見事アベック優勝。男子はOBチーム等一般の参加を含めた全体でも3位の好成績。女子は関東のトップだが、学生トップを京都大学に譲る。

矢板 IC の勝利

第14回を迎える本大会は本来関東の学生選手権団体戦ではあるが、数年前から一般参加が増え、男子選手権で48チーム、女子選手権で34チームという、一大イベントになってきている。

特にここ数年一般の強豪チームのオープン参加が増え、純粋な関東の学生チームの上位進出が困難となっている。今年もそのトレンドどおり、一般チームが優勝。優勝したのは矢板ICチーム。3月に矢板で開催される全日本学生選手権大会のアピールを目的に矢板インカレ実行委員会を中心に構成されている。これで、矢板インカレの成功も間違いなし、とは約束されたわけではないが、良いサインと言えるだろう。

昨年に引き続きOB対抗戦も行われ、かつての各校エース級の選手などが激しく争い大いに盛り上がった。優勝は東京大学のOBチーム、杏友会B。トップを走る筑波大学OBチームの松下愛則に約8分差でスタートしたアンカー鹿島田浩二がラス前で逆転という劇的なフィニッシュ。杏友会Bチームは全体のトップであった矢板インカレチームにも1分11秒に迫る好走。一方筑波大学OBチームは最後に筑波大学とのOB・現役対決でも3秒差で競り負けた。

筑波アベック優勝

メインの関東の学生選手権は、男子、女子ともに筑波大学が制した。複数のチームに分散し、インカレに向けた選手選考の参考に活用した大学が多い中、筑波は両チームとも最強メンバーを揃えてきた。男子は武政泰輔、佐々

木良直、増田佑輔、小泉成行。女子は高野麻記子、二俣みな子、黒河幸子。

関東学生選手権男子二位は二年生ペアの青木博人、久野雄介の活躍で東京大学、三位は昨年のインカレリレー優勝した早稲田大学だった。なお、関東以外の学生チームを加えると順位は、筑波大学、東北大学、京都大学、東京大学C、東京大学A、早稲田大学、金沢大学であり、シード3人を揃える3校が3位までを占める順当な結果となった。

1位	筑波大学	3:06:23
2位	東北大学	3:14:56
3位	京都大学	3:18:02
4位	東京大学C	3:18:04
5位	東京大学A	3:20:28
6位	早稲田大学	3:29:17
7位	金沢大学	3:38:34

2位の東北はエース金澤拓哉が学生トップのラップタイム。3位京都はインカレショート入賞の新宅有太を故障で欠きながらもこの順位。一方4位の東大は2チームをトップ3校の次に着ける層の厚さ。東大Cは2年生のみのチームであり、シード選手のエース加藤弘之は3年、4年のAチームで走っている。インカレの優勝争いはこの4校に絞られるのは間違いない。

女子は京都が圧勝

女子の方は関東だけで見ると筑波大学、千葉大学、相模女子大学の順位であったが、関東以外を含んだ順位で見ると、やはりシード選手3人がいる京都大学が圧勝。

1位	京都大学	2:31:16
2位	筑波大学	2:53:31
3位	千葉大学	2:56:31
4位	東北大学B	2:57:33
5位	東北大学A	2:57:48
6位	相模女子	3:00:42
7位	宮城学院	3:26:52

学生トップのラップタイムであったエースの番場洋子はじめ、石川裕理、浅井千穂と個人タイムでも全員が6位以内。

2位以下は筑波大学、千葉大学、東北大学、相模女子大学、宮城学院女子大学と続く。最近の女子層の薄さを反映してかトップの京都から宮城学院

女子までは一時間近い差があった。一方、京都のライバルと目される東京女子大学は不安を感じさせる結果で下位に沈んだ。個人の成績で見ると、番場、黒河幸子(筑波)の二人が50分を切る好タイム。以下、新潟の増山歩、京都の石川、東京女子の田島聖子、京都の浅井と続く。

今回のリレーの結果は、男子は順当で、女子も東京女子が大きく崩れた以外は概ね現在の実力どおりの結果になったと思える。この結果を踏まえ、3月の学生選手権は次のようなポイントが重要になってくるのではないかと。

矢板 IC は接戦模様

コースの組み方にもよるが栃木のテレインは比較的平坦であり、地形も分かりやすく、見通しも良いため、スピーディなレース展開になることが多い。そのため、大きなミスせずタイムをまとめるのは比較的容易である一方、スピードを追求するあまり、少し難しくなったポイントで予期せぬ大きなミスをする事や、小さなミスが積み重なり結果を左右することがある。

女子は京都大学の実力が抜き出ている。対抗する筑波大学と東京女子大学は予想されるテレインでは京都が大きくミスすることは期待できないだろう。むしろ、京都をマークした走りで競り合いに挑みプレッシャーをかける必要がある。待ちの姿勢か、攻めて行くか、追う二校は戦略を迫られる。

男子は上位4校の実力が拮抗する。ただタイムをまとめるだけでは、優勝には届かないように思える。各校の戦略もあるが、このミスをするかしないかのトップスピードでレースが展開されることになると予想される。オリエンテリングの本質ともいえるスピードコントロールがポイントとなり、順位入れ替え目まぐるしい観客を沸かせる激しい接戦が期待される。

(山本英勝 hidi_o@yahoo.co.jp)